

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	松村 翼	学校名	神戸市立東舞子小学校
実施学年	小学校5年生	教科	算数科
单元名	面積の求め方を考えよう(四角形と三角形の面積)		

《学びを深めたいポイント》

本単元は、三角形や平行四辺形、ひし形及び台形の面積について、図形の見方を働かせて、これまでに学習してきた図形の面積の求め方に帰着し、計算による求め方について理解することや、その求め方を通して、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことが目標である。

本実践では、目標を達成していく過程で、他者の考えを参照しながら学習を進めた。ねらいは、子供たち同士が他者の考えに触れることで、相手を選んで交流や議論し、自分の考えを深めることである。交流や議論を重ねる中で、たくさんある考えから、「考えに共通すること」や「もっと簡単に求める方法」に焦点化した。その際、自分や友達の発表ノートを用いたり、比較したりしながら説明することで、目標を達成にできるようにした。

実践レポート内で紹介する本時では、台形の面積の求め方を考えた。これまでに学習した図形の面積の求め方を活用して、台形の面積を求める➡より簡単に求めるために公式化できないかを考える過程で、相互参照を行い、ねらいに迫る考えを導き出せるように学習を展開した。

《SKYMENU 活用のポイント》

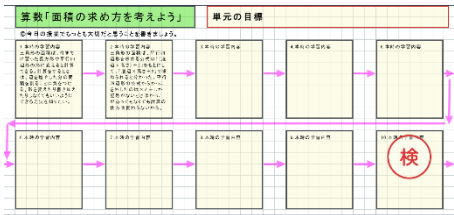
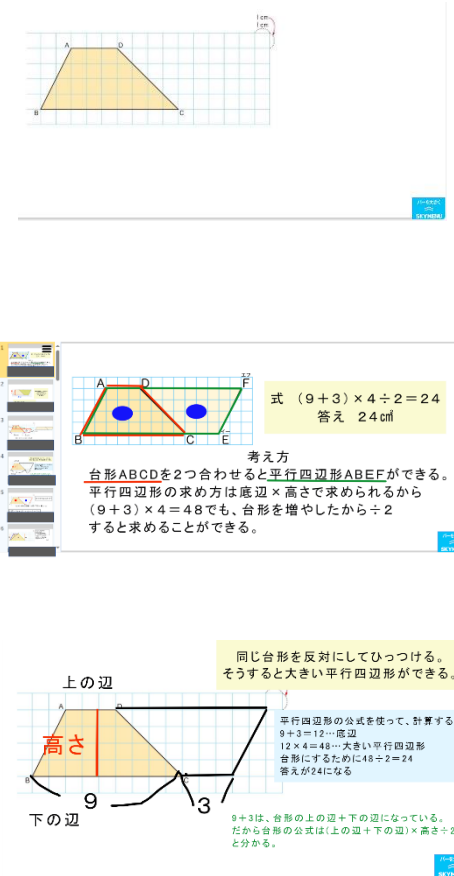
発表ノートのグループワーク機能を用いて学習を進めた。クラス内の全児童が同じグループに入り、他者の考えを常に可視化できるようにした。たくさん考えを出したい児童はシートを追加し、どんどん考えを書いていた。他者の考えで聞きたいことや確認したいことがあれば、自由に交流してよいことにしたので、考えを伝え合う児童もたくさんいた。学習が苦手な児童は、学習が進んでいる児童の考えを見てヒントにしたり、どのように考えたているのか質問したりすることで学習を進めることができた。それぞれの児童のペースで学習を進められることも活用のポイントである。

また、「常に他者の考えを参照」できることで、「自分の意図に応じた相手を選び、交流、議論する」ことが可能になった。はじめはペアで話をしていると、その話が聞こえてきた児童がその話に参加することで自然とグループトークになっている場面もあった。「意味のある交流」ができるようになった。

さらに、他の児童のノートが残るので、自分と違う考えやより分かりやすくまとめているものが常に見ることができるので、学習のふりかえりにも役立った。

ふりかえりは、別の発表ノートに毎時間記録することで、単元内の学びが繋がるようにしている。(岡山県赤磐市立山陽西小学校 松下先生の実践を活用)

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 前時で学習した内容を確認する。 2. 本時の課題を確認する。		・前時のふりかえりで良かったものを「画面提示」で共有する。
展開	3. 台形の面積の求め方について考える。 4. 全体で台形の面積の求め方について確認する。 ○どうすれば求められるか ○共通していることはないか 5. もっと簡単に求められる方法はないか議論する。		・発表ノートのグループワーク機能を用いて、クラス全員の考えが見られるようにする。 ・友達の考えで聞きたいものや確認したいものがあれば、自由に立ち歩いて聞きに行っても良い。 ・プロジェクターで児童の発表ノートを写し、全体で確認できるようにする。 ・「画面比較」を用い、共通点を見つけやすいようにする。 ・公式がつくれそうな考え方はどれかを検討する。
まとめ	6. 本時の学習をまとめ、ふりかえりを行う。		・別の発表ノートでふりかえりを行う。単元を通して1枚の発表ノートで行っているのので、学びの足跡が分かる。

《実践を振り返って》

自分のこれまでの授業スタイルだと、交流する相手をこちらが決め、話し合わせていたので児童によっては意味のない交流になっていた。しかし、今回実践した「常に他者の考えを共有できる」ようにすることで、自然と対話が生まれ、それぞれの児童の学びが深まっているように感じている。

ノートに文字を書くのが苦手な児童にとってはデジタルになったことでより表現がしやすく、まとめやすくな

ったようだ。また、他の児童の考えがノートに残ることで、すべての考えを書く必要がなくなり、より交流する時間が取れるようになった。自分で学習を振り返ったり、復習をしたりする際に見ることができることも学習を進めていく中での利点だと言える。

単元内のふりかえりを一つのノートにまとめたことで、その時間で何を理解し、どう生かすかがより分かりやすくなった。次時で意識していく見方、考え方も明確なので学習の理解も深まったように感じている。

児童にこれまでの方法と今回の方法のどちらが学びやすいかを尋ねたところ、ほぼ全員が今回の方法の方が良いと回答した。理由としては、「他の人の考えがいつでも見られるから、自分の考えと比べることができるので理解しやすくなった。」や、「分からなくても進んでいる人のノートを見てヒントにできるし、見て分からなければ聞きに行けるので学習を進めることができるようになった。」などが挙げられた。これまでの方法が良いと答えた児童は、「どうまとめていけばよいかまだ困っている」ことが挙げられた。今後活用を進めていく中で、より良いまとめ方についても引き続き指導したり、一緒に考えたりしていきたい。

こちらが指定しなくても、聞きたい相手を選び、積極的に交流、議論することは、学級内での人間関係の構築にも役立っている。日常でのつながりがあまり無かった児童同士が、学習でのつながりを得ることで、新たな関係の構築になっていた。また、学級集団の関係性が良くないと自由に交流することもできないので、学級経営も大切にしていける必要性も改めて感じた。

今回の実践で私自身もそして、子供たち自身もデジタルの良さにより気付くことができた。個別最適、協働的な学びができるようにしていくためにも今後も実践を積み重ねていきたい。